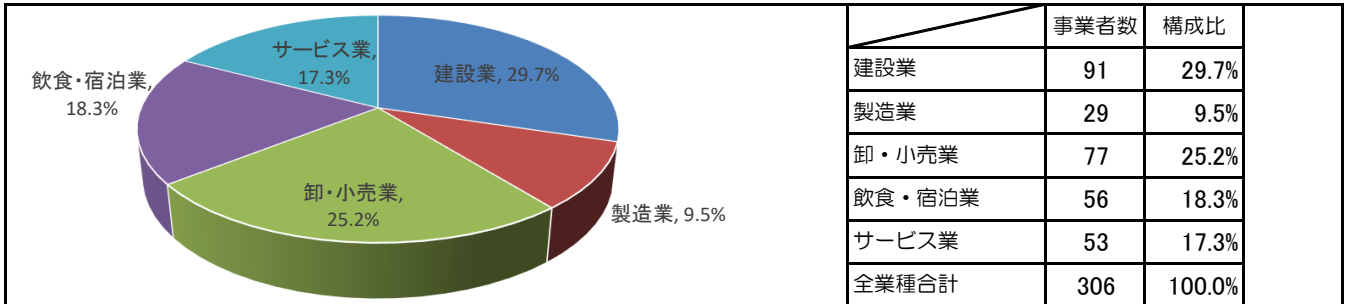


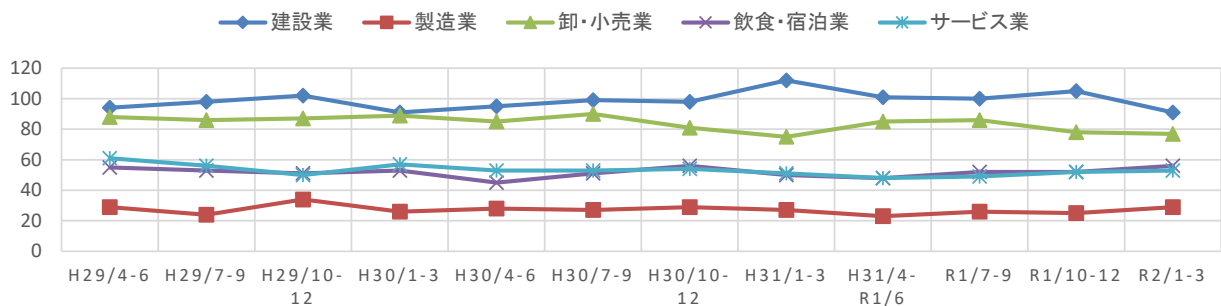
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



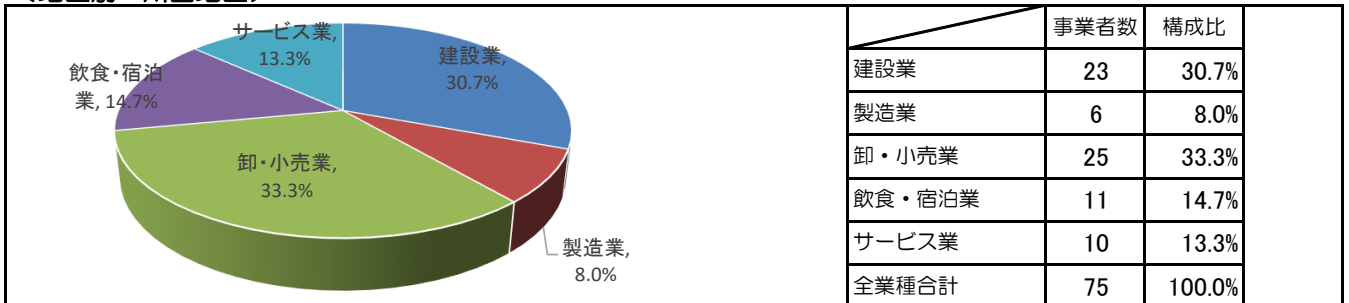
業種別調査事業所数の推移(市内全体)



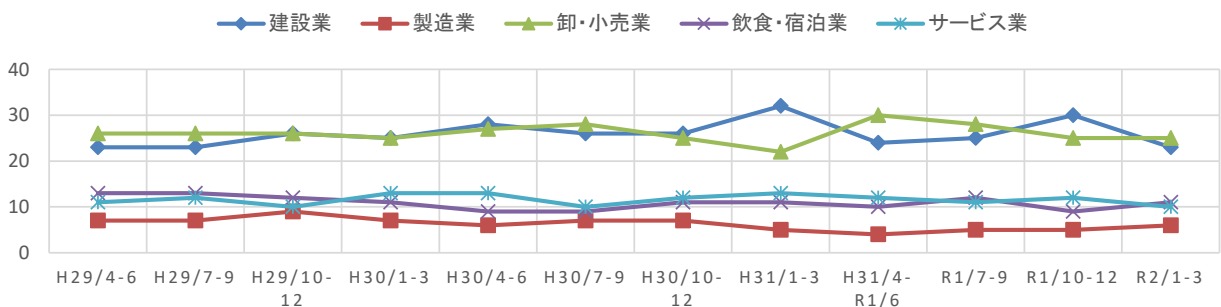
<コメント>

今回調査の回答事業所は、前回調査よりも6事業所減少しているが、十日町市内商工会地域全体(約1,000社)の約3割の事業所から回答を得ることができた。建設業の回答割合が減少しているものの、業種構成割合は大きな変動は無かった。

<地区別：川西地区>



業種別調査事業所数の推移(地区)



<コメント>

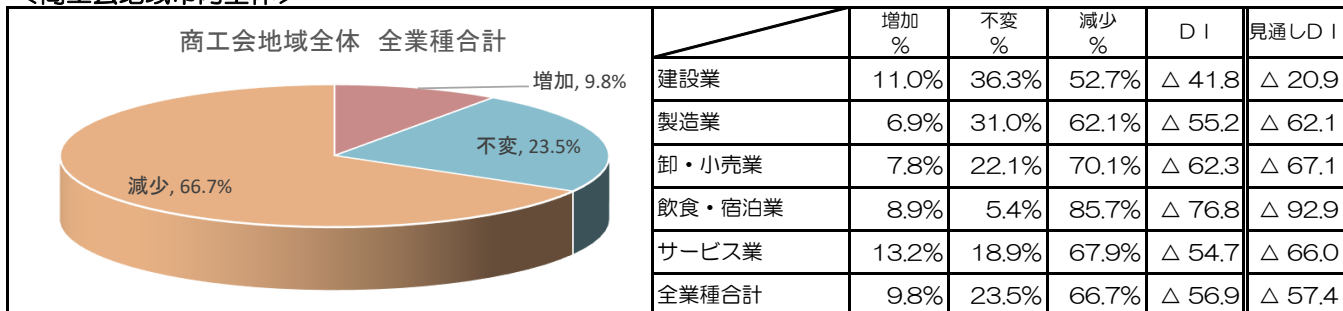
川西地区の業種割合は商工業者100社を対象に調査依頼をし、75社(回収率75%)からの回答を基にした集計結果である。製造業の割合が少ないものの、これまでの調査対象事業所数と同様の数値である。

D I 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

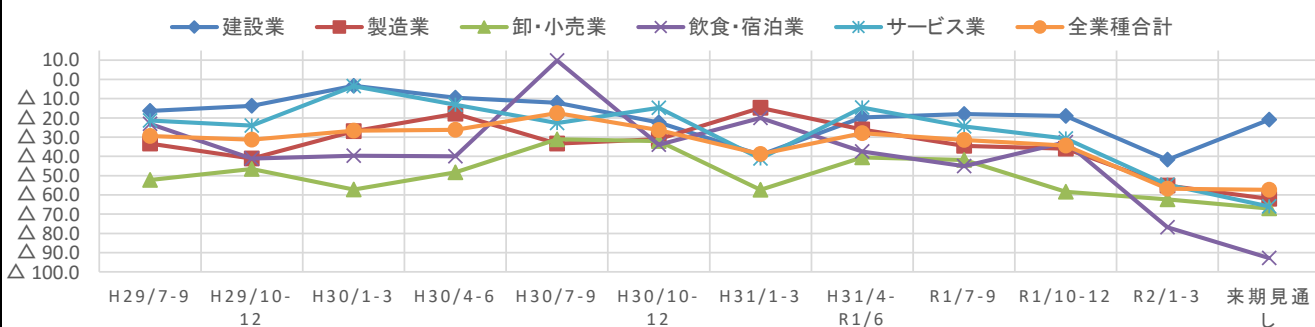
1. 売上について

- ・1月～3月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



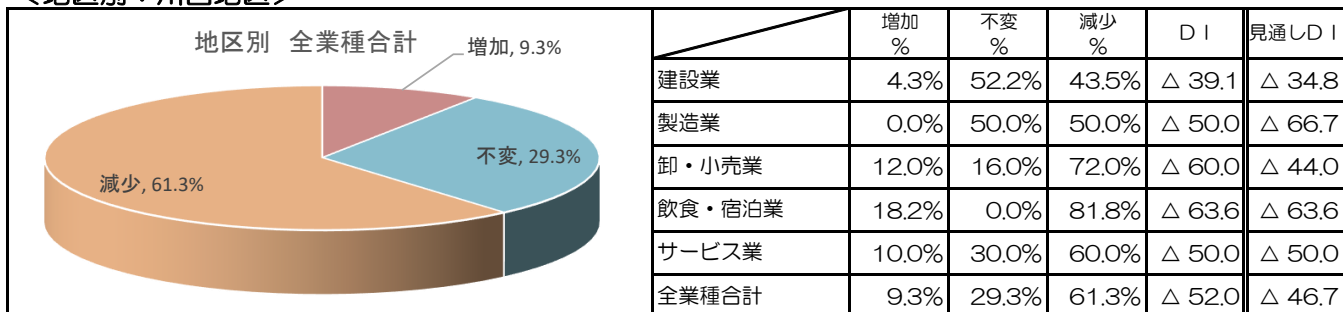
業種別売上の推移（市内全体）



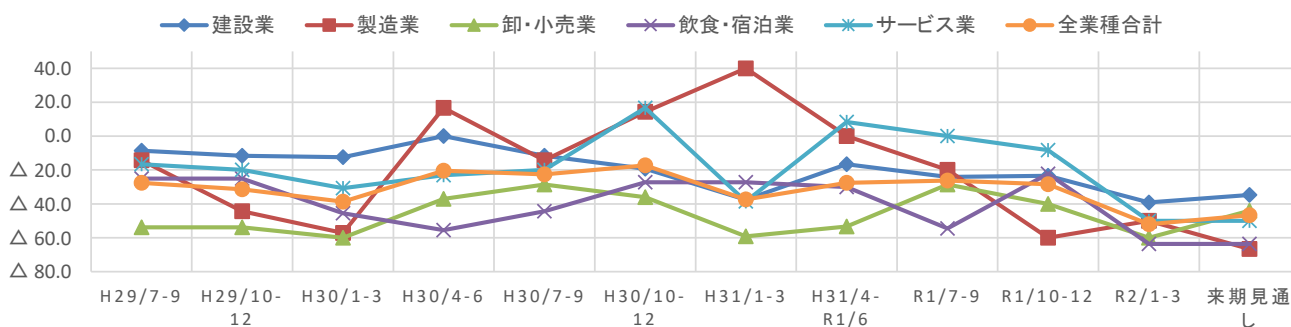
<コメント>

今期の市内全体の売上状況は、全業種DI値で△56.9ポイントで、前回調査時よりも22.5ポイント減少となっている。前回調査時の来期見通しどおりの結果となっており、小雪による除雪関係の売上減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく反映されている。来期見通しでは、建設業で増加予測があるものの、その他の業種は今期よりも減少するものと思われる。

<地区別：川西地区>



業種別売上の推移（地区別）



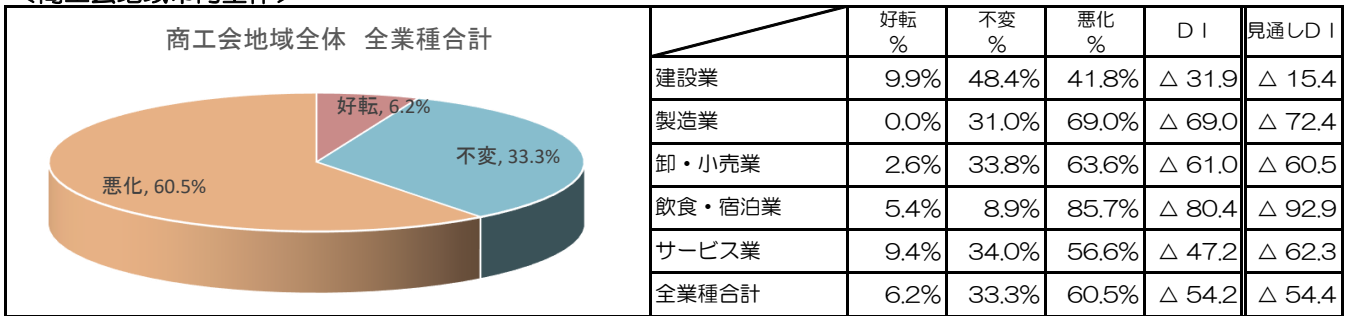
<コメント>

川西地域の売上は業種全体で前年同期と比較して△52.0ポイントの減少となっている。2月からのコロナウィルスの影響により、全業種で売上の減少が相次いでいる。来年同月の見通しでは全業種で5.3ポイントの回復を予想している。

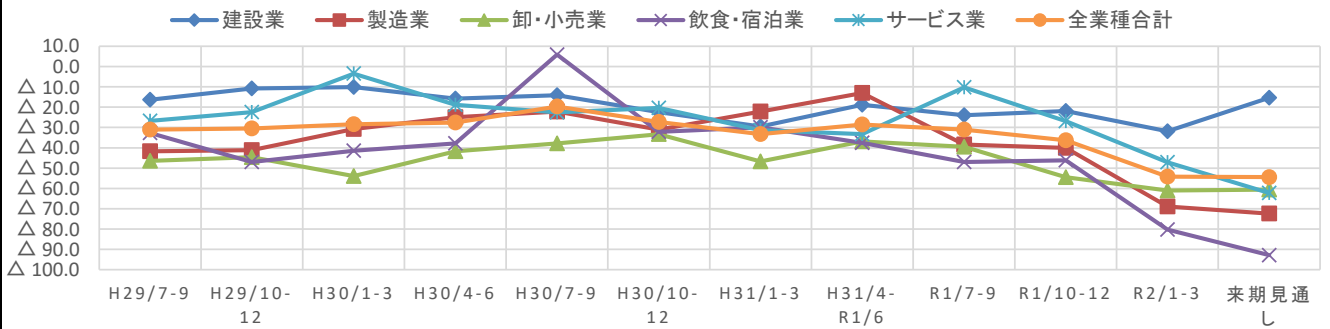
2. 採算について

- ・1月～3月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



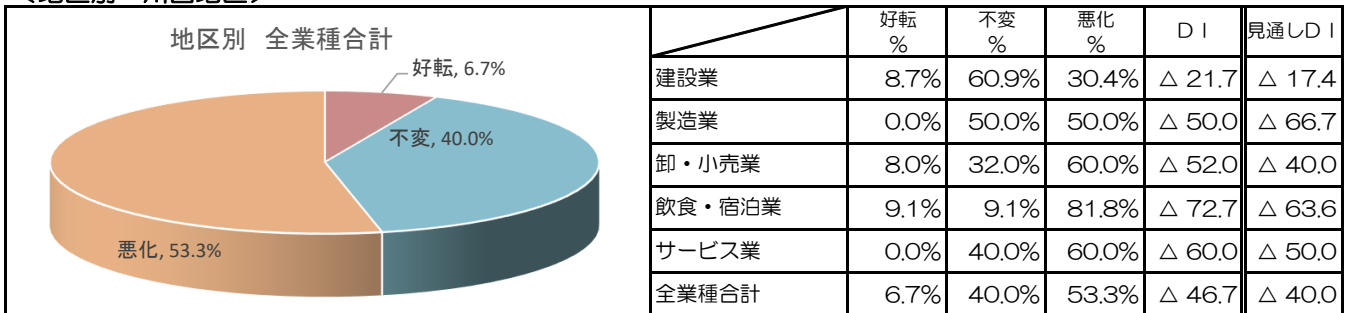
業種別採算の推移(市内全体)



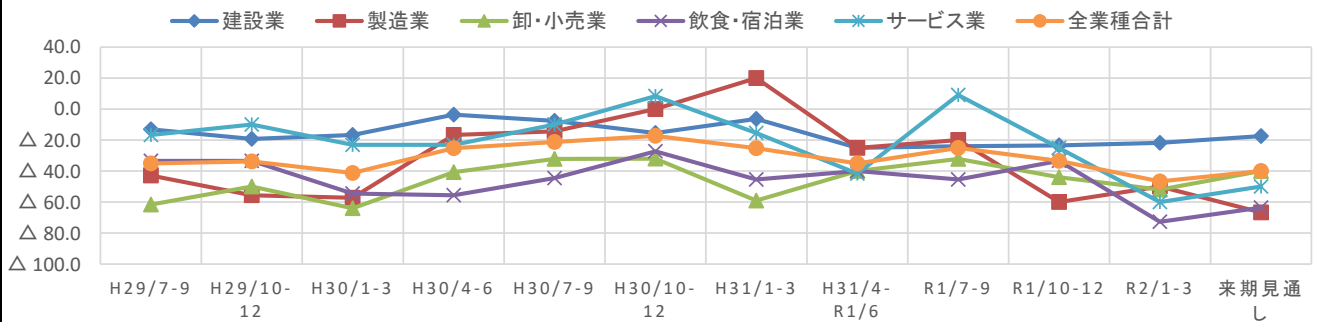
<コメント>

今期の市内全体の採算状況は、全業種D I値で△54.2ポイントで、前回調査時よりも17.9ポイント悪化となっている。推移グラフの波形から分かるとおり、売上状況と同様で全業種で悪化、来期見通しでは建設業以外は今期と同様、若しくは今期よりも悪化するものと予測されている。特に飲食・宿泊業の悪化は、新型コロナウイルスの終息が見えないうちは改善されそうもない。

<地区別：川西地区>



業種別採算の推移(地区別)



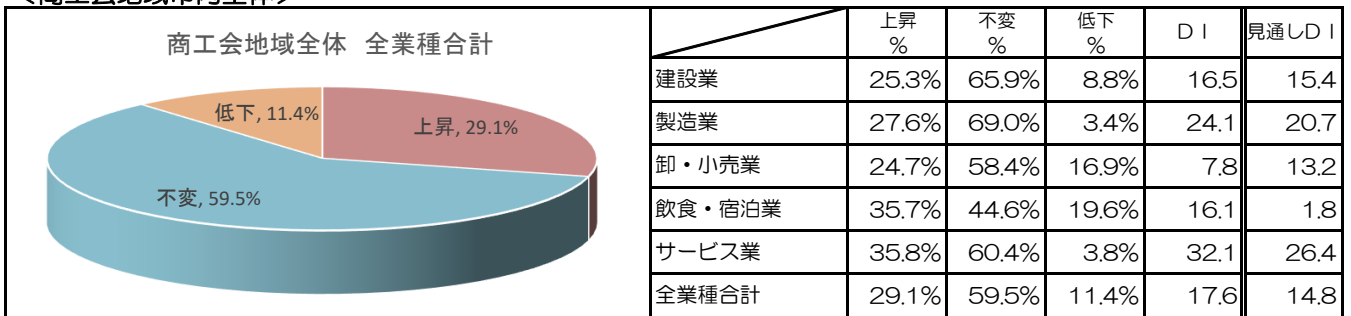
<コメント>

川西地域の採算性は前年同期と比較し、全業種で△46.7ポイントの悪化となっている。現時点では建設業において比較的悪化との回答が少ないものの、全業種に亘って大きな悪化が示されている。来期見通しでは6.7ポイントの回復を見込んでいる。

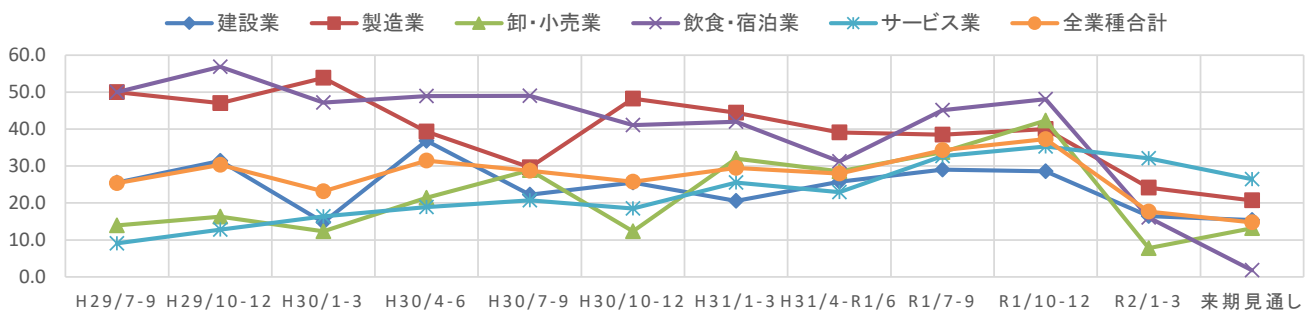
3. 仕入単価について

- ・1月～3月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



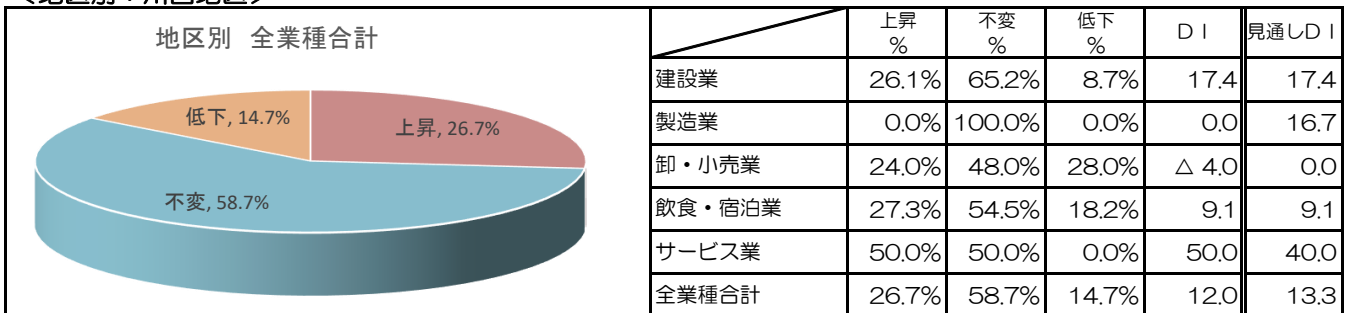
業種別仕入単価の推移(市内全体)



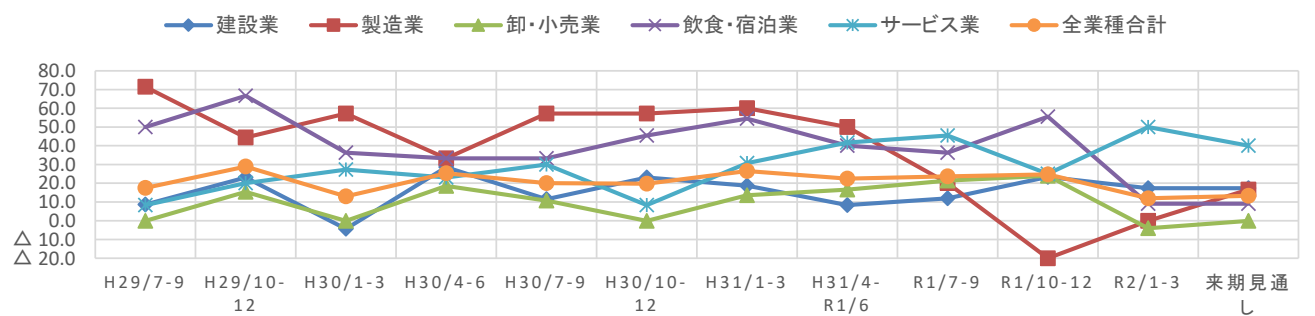
<コメント>

今期の市内全体の仕入単価状況は、全業種DI値で17.6ポイントとなっており、前回調査時よりも19.7ポイント低下となった。仕入単価においても新型コロナウイルスの影響が反映されており、すべての業種で売上が減少していることから、市場に物が余ってしまっていることによる仕入単価の減少と思われる。

<地区別：川西地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



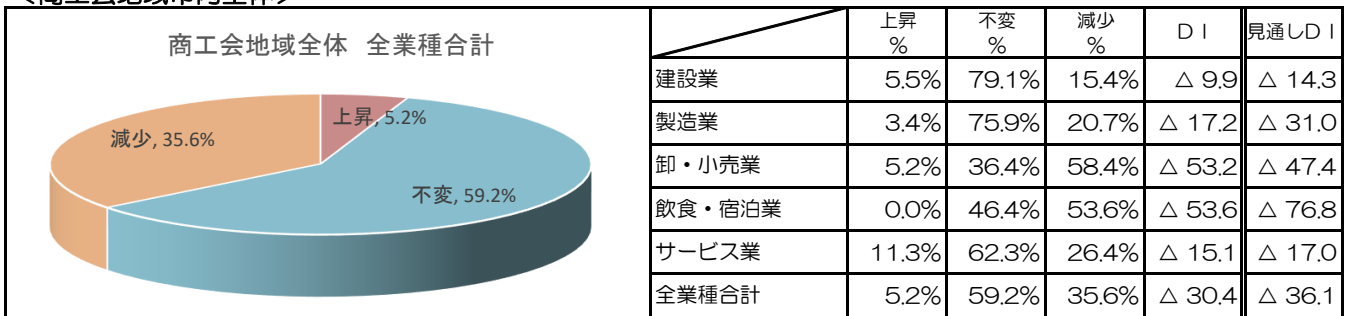
<コメント>

川西地域の仕入単価は前年同期と比較して、12.0%の上昇を示しており、特にサービス業における仕入単価の上昇が大きくなっている。また、一方で製造業では仕入単価の維持、そして、卸・小売業においては単価の値下がりを見せている。来期見通しでは1.3ポイントの仕入単価の上昇が見込まれている。

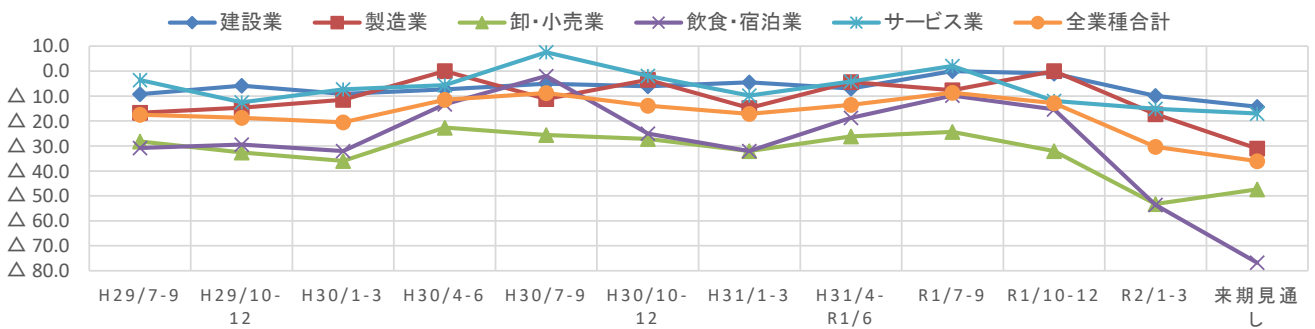
4. 販売（客）単価について

- ・1月～3月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



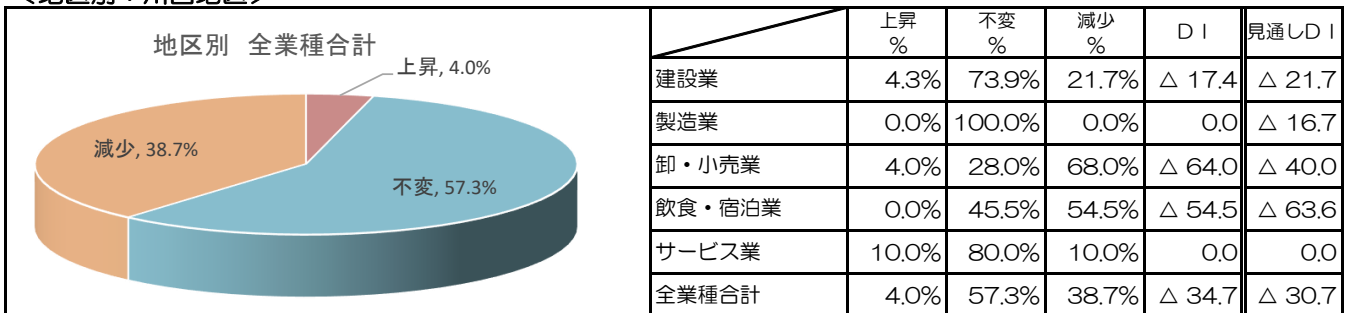
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



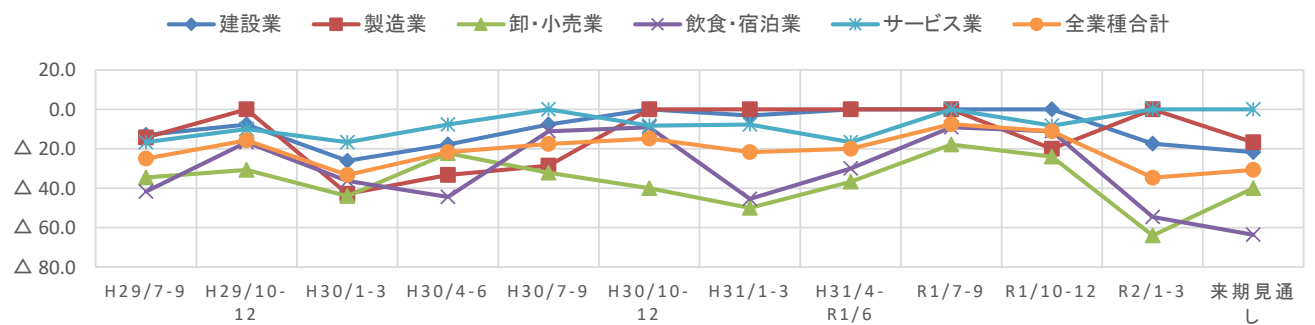
<コメント>

今期の市内全体の販売（客）単価の状況は、全業種DI値で△30.4ポイントで、前回調査時よりも17.5ポイント減少であった。全ての業種で減少となっているが、この調査項目も、新型コロナウイルスの影響により営業自粛や休業を余儀なくされている飲食・宿泊業に付随して卸・小売業の減少が著しい。

<地区別：川西地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



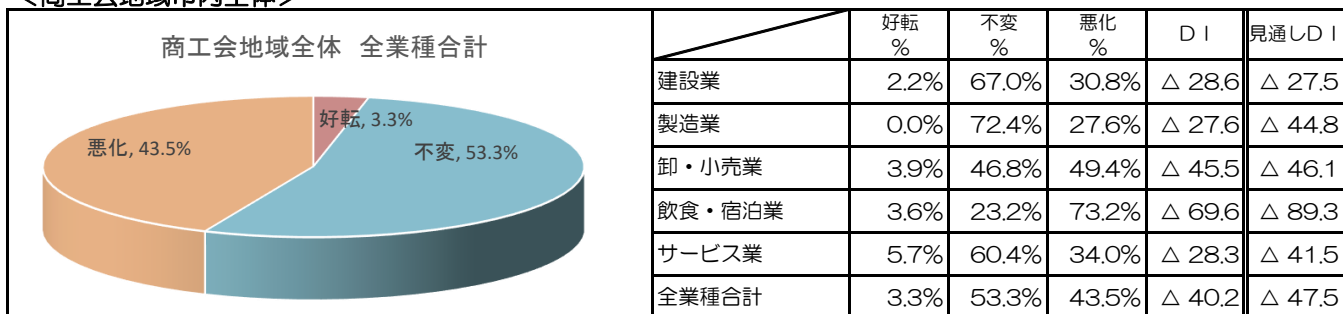
<コメント>

川西地域の販売単価は前年同期と比較して△34.7ポイントの悪化となっているが、製造業及びサービス業においては不変との見方がされている。一方で卸・小売業と飲食・宿泊業において大きなマイナスを示している。来期見通しでは4.0ポイントの改善が予想されている。

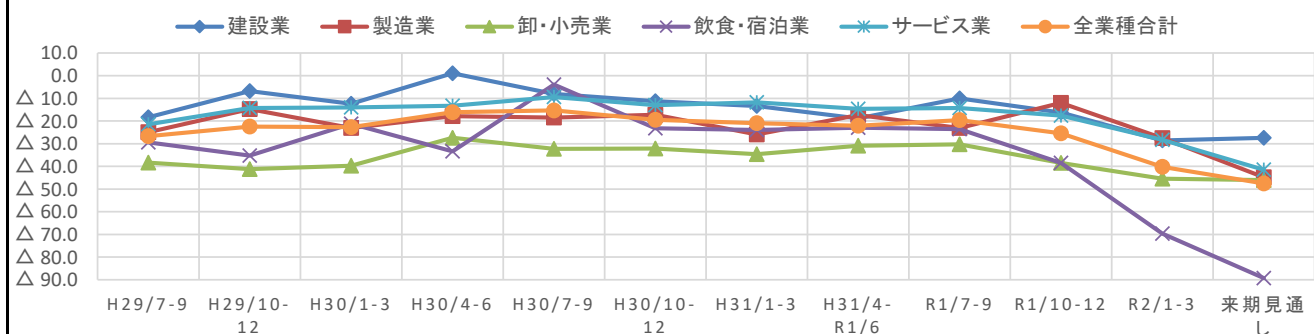
5. 資金繰りについて

- ・1月～3月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



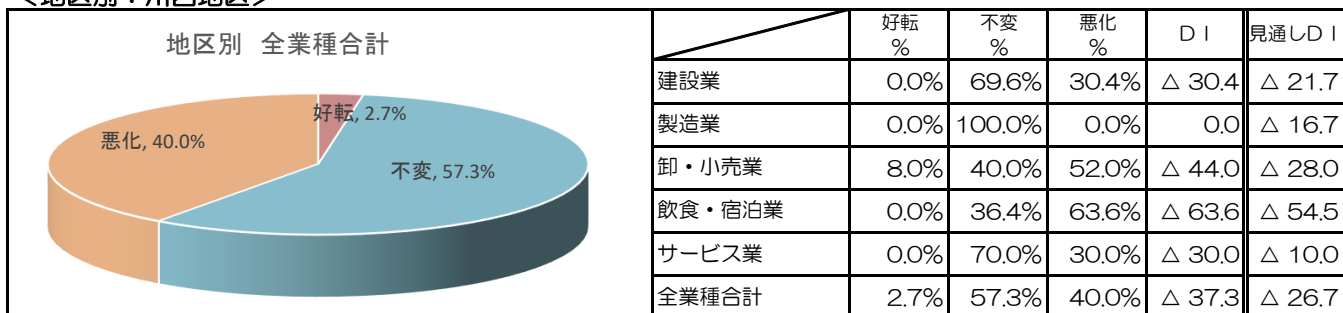
業種別資金繰りの推移(市内全体)



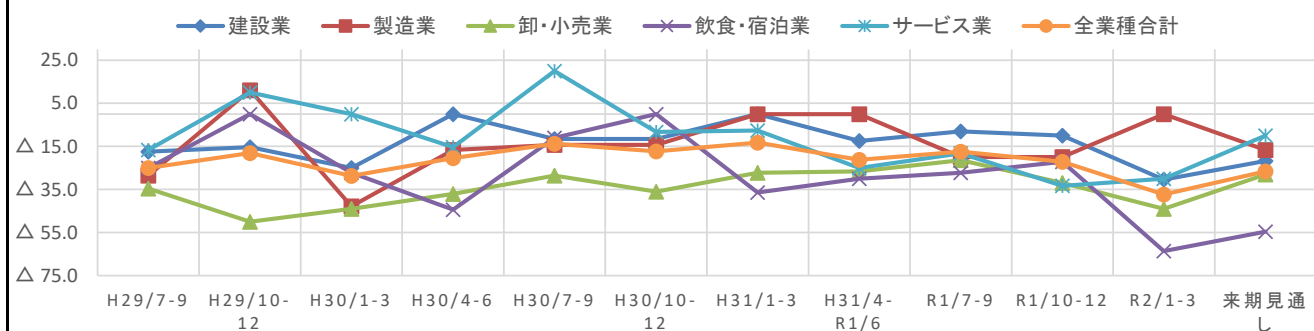
<コメント>

今期の市内全体の資金繰り状況は、全業種DI値で△40.2ポイントとなっており、前回調査時よりも14.8ポイントの悪化となっている。平成28年度の調査開始からの過去データを見ても今期ほどの悪化数値は無く、来期見通しにて今期よりも悪化予測されていることから、早くコロナウイルスが終息されないと、資金余力のない事業所に手厚い支援が無いと、倒産や廃業も懸念されるところである。

<地区別：川西地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



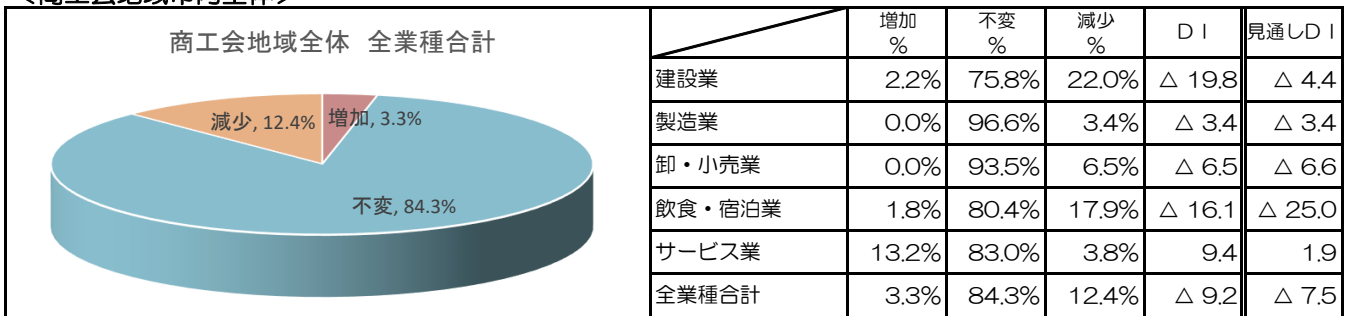
<コメント>

川西地域の資金繰りは△37.3ポイントの悪化であり、現時点では製造業は不変であるとされているが、それ以外の業種において悪化との回答が多かった。来期見通しは10.6ポイントの改善を予想している。

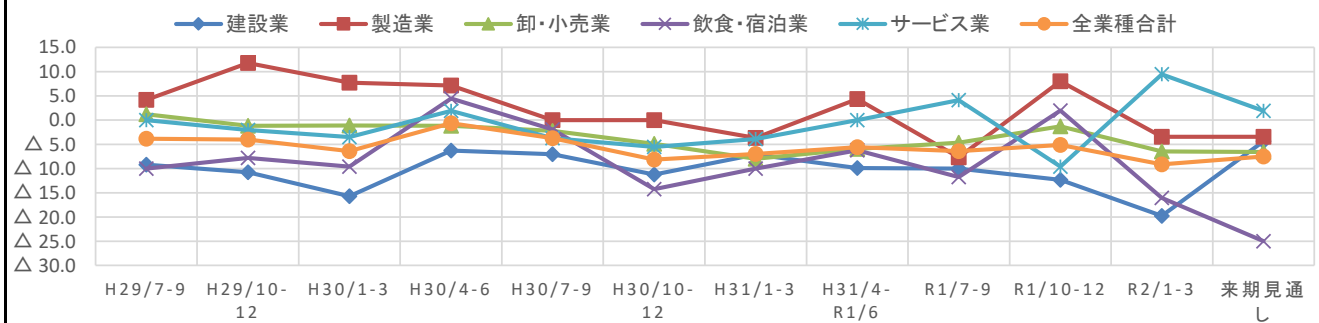
6. 従業員数について

- ・1月～3月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



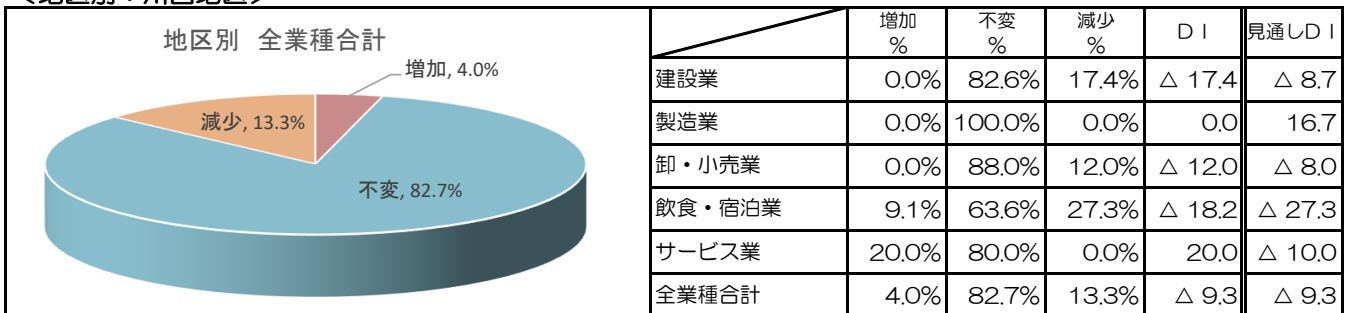
業種別従業員数の推移(市内全体)



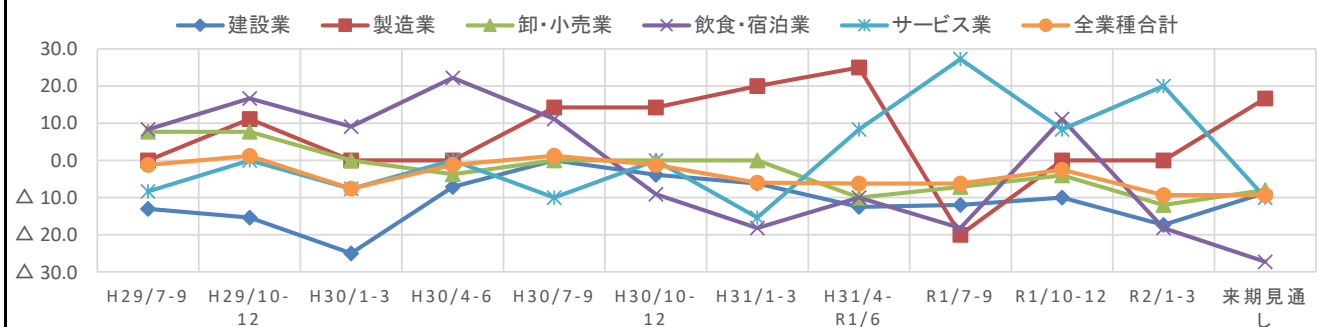
<コメント>

今期の市内全体の従業員数の状況は、全業種DI値で△9.2ポイントとなっており、前回調査時よりも4.1ポイント減少となった。業種別ではサービス業で増加となっているものの、その他の業種は減少している。来期見通しにおいては建設業で増加予測されているが、飲食・宿泊業とサービス業で減少を示しており、業種全体では今期よりも微増となっている。

<地区別：川西地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



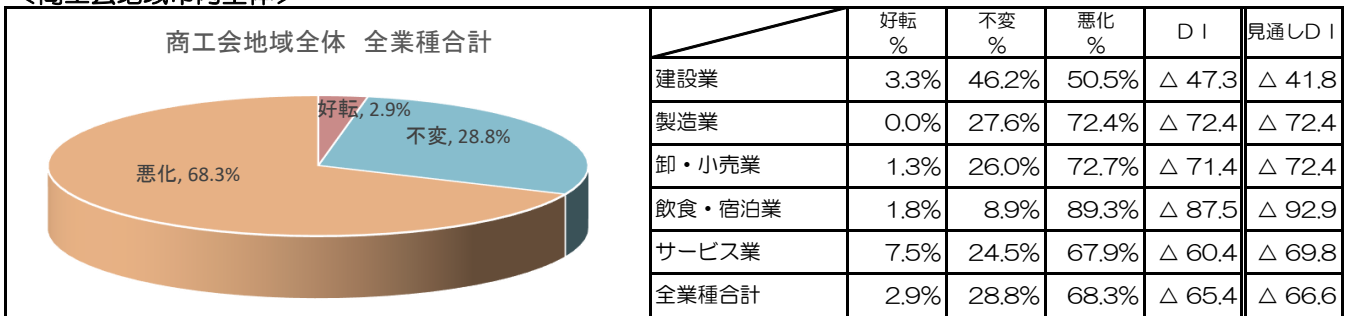
<コメント>

川西地域の従業員数は全業種で△9.3ポイントの悪化であるが、前回調査に引き続きサービス業では従業員数が増加している傾向にある。全業種から見た来期見通しでは今期と不変との見方がされており、製造業では従業員数の増加を予想している。

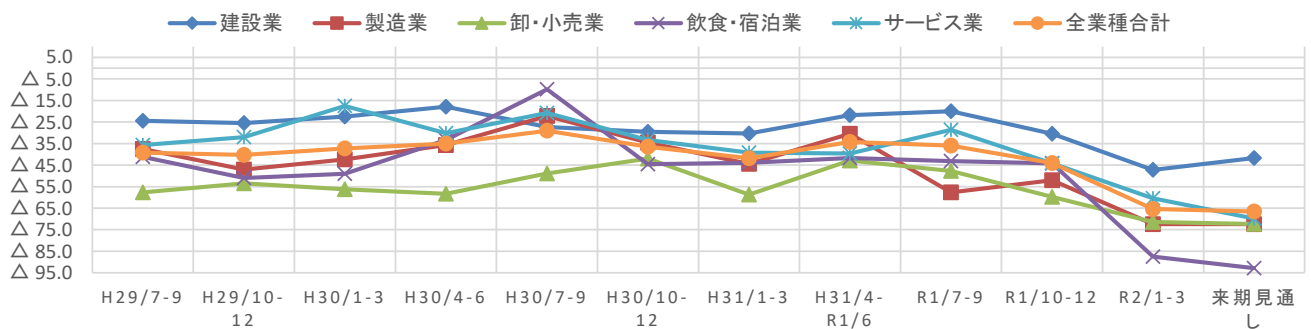
7. 景況判断について

- ・1月～3月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



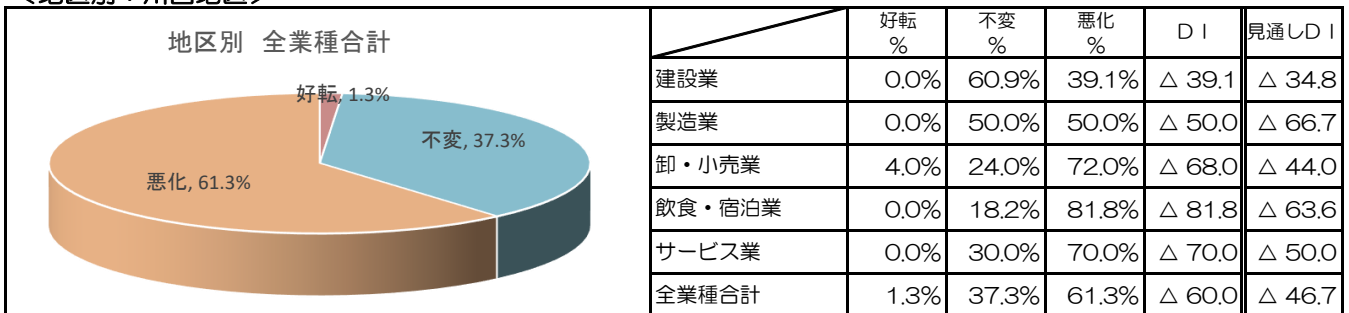
業種別景況判断の推移(市内全体)



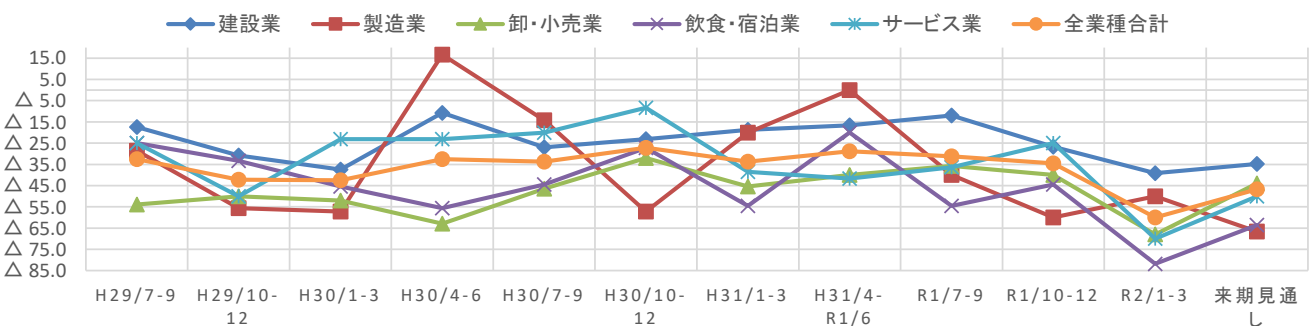
<コメント>

今期の市内全体の景況判断状況は、全業種DI値で△65.4ポイントとなっており、前回調査時よりも21.3ポイントと大きな悪化を示している。業種別でも全ての業種で悪化となっており、特に飲食・宿泊業の悪化割合が高くなっている。来期見通しにおいても今期と同レベルの数値が示されており、改善は見込めない状況である。

<地区別：川西地区>



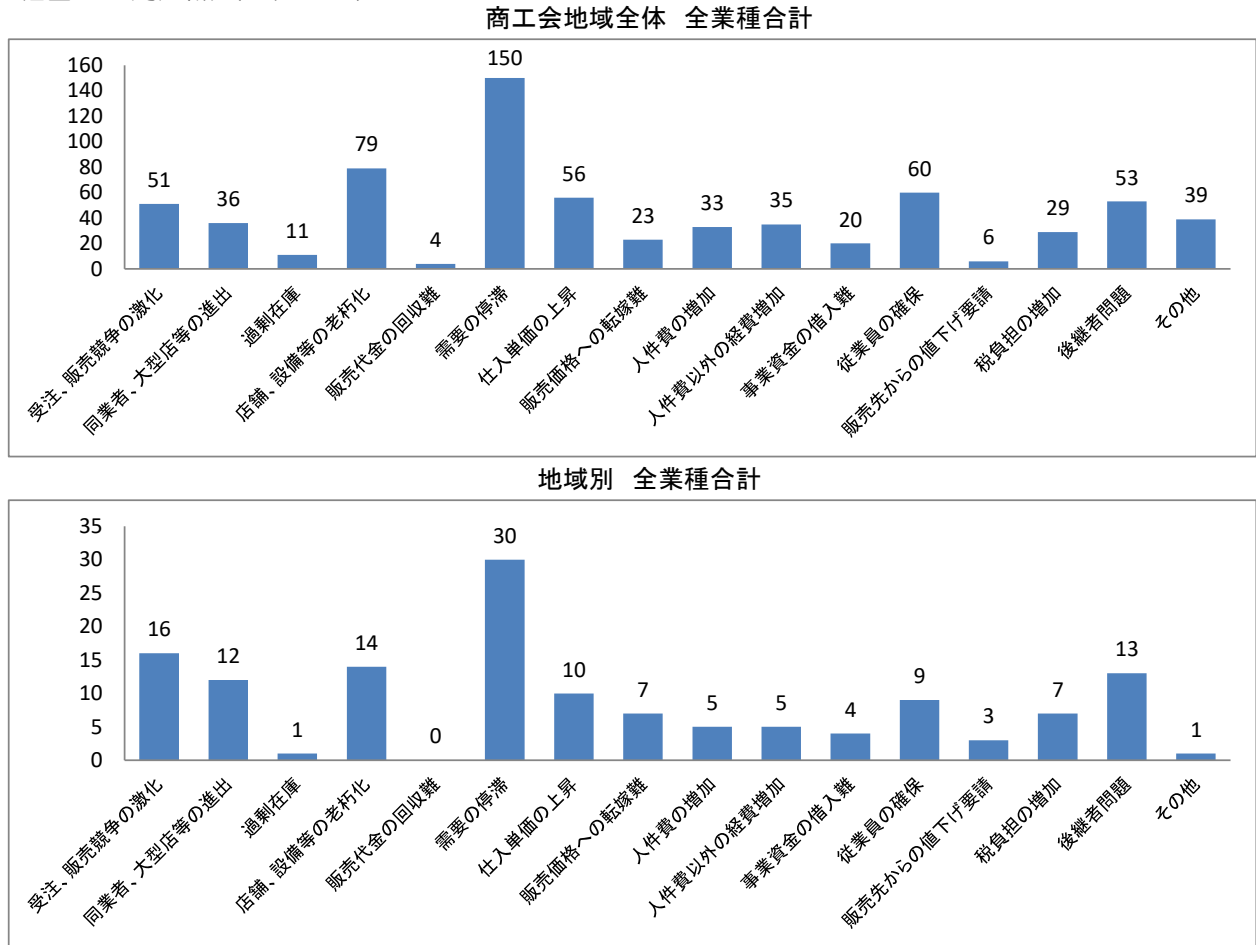
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

川西地域の景況判断としては全業種で△60.0ポイントの悪化を示しており、コロナウィルスによる世相を反映する結果となっている。中でも飲食・宿泊業、サービス業での景況感の悪化が顕著となっている。来期見通しとしては全体的に13.3ポイントの改善が予想されている。

8. 経営上の問題点（上位3つ）



<コメント>

今期調査での経営上の問題点は、1位は前回同様「需要の停滞」であったが、2位は「店舗、設備等の老朽化」となり、3位が「従業員の確保」であった。次いで多かったのは「仕入単価の上昇」であり、仕入単価は前回の2位から4位と減少したことがわかる。川西地区の経営上の問題点は、川西地域の経営上の問題点としては、1位「需要の停滞」2位「受注、販売競争の激化」3位「店舗、設備等の老朽化」が挙げられている。1位「需要の停滞」が2位「受注、販売競争の激化」と2倍近い票数を獲得しており、不況を見越した支出抑制を課題と捉える事業所が増えている傾向にある。

9. 地区の景況概要

・1月～3月時点での全体概況は

<p>【建設業】 建設業においては他業種と比較して1～3月間はコロナウィルスの影響による悪化傾向が少ない中、見通しの上では今後悪化が拡大する状況が見込まれている。また、経営上の問題点としては1位「需要の停滞」2位「従業員の確保」3位「受注、販売競争の激化」、「税負担の増加」が挙げられている。前回調査より「需要の停滞」の順位が上昇する結果となっており、現時点ではコロナウィルスの影響があまり現れてはいないとされているが、以後は予断を許さない状況にある</p>
<p>【製造業】 製造業においては仕入単価、販売単価、資金繰りについては不変であるとされているが、直接的な収入としての売上及び採算の悪化が表れている。経営上の問題点としては1位「店舗、設備等の老朽化」2位「需要の停滞」3位「販売先からの値下げ要請」3位「販売価格への転嫁難」「後継者問題」を挙げており、問題点の1位「店舗、設備等の老朽化」は前回調査と同様の順位であるが、コロナウィルスの影響による「需要の停滞」を課題として捉える事業所が増加している。</p>
<p>【卸・小売業】 卸・小売業においても全体的に大きな悪化との回答が多いが、仕入単価については全業種の中で唯一、改善を示している。経営上の問題点としては1位「需要の停滞」2位「受注、販売競争の激化」3位「同業者、大型店等の進出」が挙げられている。「需要の停滞」は前回同様1位である。前回(10月～12月分)調査では「仕入単価の上昇」を課題として挙げる事業所が多かったが、今回調査より改善の兆しが見受けられる。</p>
<p>【飲食・宿泊業】 飲食・宿泊業においても全般的に大きな悪化の傾向が表れており、「景況判断」の項目では他の業種よりも特にDIが低くなっている。経営上の問題点は1位「需要の停滞」2位「店舗、設備等の老朽化」3位「後継者問題」であり、前回と1位と2位は変わっておらず課題としている事業所が多い。飲食業・宿泊業においては、コロナウィルス感染拡大防止のための営業自粛等の影響により景況の悪化を強く感じている傾向にある。</p>
<p>【サービス業】 サービス業も全体的に悪化との回答が強く、特に仕入単価では大きな上昇傾向が示されている。その一方、前回調査に引き続き「従業員数」の項目が改善されている状態にある。経営上の問題点としては前回同様に1位である「需要の停滞」に次いで、2位は「受注、販売競争の激化」「同業者、大型店等の進出」「店舗設備等の老朽化」「仕入単価の上昇」「人件費以外の経費増加」と事業所がそれぞれ持つ固有の課題が幅広く挙げられている。</p>